

特集

EBP と看護教育

患者と家族のためのケアを行いたいと日ごろから考えていても、忙しい臨床では実践1つひとつの意味や根拠について考えたり振り返ったりする余裕がなく、現場で受け継がれてきたケアを行っていることも多くあるかもしれません。そうした臨床に対して、研究・教育が両輪のもう一方の輪となってケア（実践）の効果を裏付け、さらに効果的な実践へと高めていく、そんなかわりが求められています。本特集では、患者と家族のためのケアを行ううえでエビデンスはどう役立つか、エビデンスにもとづく実践（EBP）を行うにはどうすればよいのか、EBPを進めるうえで教育機関が果たすべき役割とは何なのかを大阪大学での教育事例を交えて考えてみたいと思います。

